
尾崎幸謙研究室の紹介

社会の問題解決のための
データサイエンス研究

社会の問題解決にデータサイエンスの力を活かす

社会・社会科学の諸問題

Web調査には不適切な回答者が多く、これを検知したい

小学校から社会人までを対象とした大規模テストを全受検者に対して公平に実施したい

商品の違いを考慮しつつ、消費者ごとの価格反応の違いを分析したい

不適切会計を高い精度で検知したい

このような諸問題を社会科学分野における研究の枠組みで捉え、発展的なデータサイエンスの力で解決することを目的とした研究を遂行しています。

最近の研究活動その1

- **社会科学的研究で頻繁に用いられるWeb調査データには、適当な回答が度々含まれ、このことがデータの質を低下させている。**
- **Web調査データに含まれる不適切な回答者を機械学習で抽出する方法を開発した。アイブリッジ株式会社と共同研究契約を締結し、研究を発展させている。**

尾崎幸謙・鈴木貴士 (2019). 機械学習による不適切回答者の予測.
行動計量学 第46巻第2号 pp.39-52.

最近の研究活動その2

- 一般社団法人教育のための科学研究所の客員研究員として、小学校から大学・企業で広く使用されはじめているリーディングスキルテストテストの実施方法をテスト理論の観点から検討した。

Arai, N. H., Todo, N., Arai, T., Bunji, K., Sugawara, S., Inuzuka, M., Matsuzaki, T., **Ozaki, K.** (2017). Reading Skill Test to Diagnose Basic Language Skills in Comparison to Machines.
Proceedings of the 39th Annual Cognitive Science Society Meeting (CogSci 2017), pp.1556-1561.

新井紀子・尾崎幸謙 (2017). デジタイゼーション時代に求められる人材育成
NIRAオピニオンペーパー No.31 pp.1-10.

指導学生の修士論文タイトル

- 中小企業の事業再生スキームに影響を与える要因
- ネットワーク自己相関モデルにおけるWeight Matrix (W) の直接推定
- メガネ消費者調査データによる購入者の購買選択に関する研究
- 機械学習と時系列分析を用いたバイタルサイン変動予測の精度向上
- 三世代同居が子ども数に与える影響 ー静岡県を例としてー
- 目的変数を定義した最適な分割表探索によるパーソナルデータ匿名化手法の研究
- 項目反応理論を用いた消費者別価格反応度の推定
- 中高生英語学力の伸びと動機づけの関係ー伸びる生徒と伸びない生徒は何が違うのかー
- 読解力と学習動機が学業成績に及ぼす影響に関する一考察
- 複数の能力を測定する適応型テストにおける効率化の研究
- 日本医薬品市場の特殊性の解明と薬価算定方式に関する検討